

10月31日(日)・大会2日目 13:10~14:40（組織論レビュー【14】会場）（90分）

●組織論レビュー セッション【14】

「研究開発における組織内・組織間関係:特許データによる貢献と限界、留意点」

* 吉岡(小林) 徹（一橋大学大学院 イノベーション研究センター 専任講師）

* 代表報告者

〔 概 要 〕

特許データは研究開発活動を対象とした実証的な組織論研究の有益なデータ源として用いられてきました。特に近年は研究データの充実により、その利用の仕方の発展が著しい状況にあります。同時に、限界点も共有されるようになっていきます。

本報告では、組織の戦略や組織内の人的関係、そして、組織間の人的関係や知識交換関係の操作化において特許データがどのように寄与し、そして、その利用にあたって何に注意しなければならないかを近年の主要学術誌掲載論文を基に整理を行います。

さらに、これから特許データを用いた研究をすすめる研究者を対象に、どのようなデータ源があり、それぞれの利点・欠点がどこにあるかも紹介いたします。

〔 参加者へのメッセージ 〕

具体的な論点としては、組織の研究開発戦略とその結果の計測、組織内の研究開発体制とその結果の操作化、組織間の戦略的関係性の計測、組織間の知識フローの計測、組織間の関係性の環境条件の操作化を予定しています。

他の組織論レビューセッションと異なり、研究方法の基盤を紹介するチュートリアルとしての色彩の強い報告を予定しています。